

静岡県
御前崎市



御前崎地区
学び歩き
マップ



文化財HP



所在地地図



商工観光HP



御前崎の由来

地名には諸説あるが、地名辞典や江戸時代の絵図に御前崎、厩崎の名前がみられ、かつてこの地域に馬牧があったことを示している。この名前が変化して、御前崎となったという説が主流である。また、御前崎の地域は駒形神社周辺の先端地域(崎)ではないかといわれている。今の上岬、下岬区あたりだろうか。

1600年代に入り地頭方村枝郷により従前の御前崎に加え、二ツ家(大山・西側)女岩、広沢を含めた地域を御前崎と称することとなった。明治に入り、町村制実施により御前崎村が発足、1897年(明治30年)区の設置が定められ現在の6地区が始まっている。

お問い合わせ

■ 御前崎市役所 社会教育課
御前崎市池新田 5585
TEL.0537-29-8735

■ 御前崎地区センター
御前崎市白羽 5404 番地の1
TEL.0548-63-3828

2023年3月現在 第3版

1 御前崎ケーブルパーク みさきの広場

MAP D-5



みさきの広場のモニュメント「波の門」

「海と大地の調和」がテーマの自然を生かした公園。灯台下の「みさきの広場」から「地球が丸く見えるん台」を通り「夕日と風が見えるん台」を巡る約1.5kmの遊歩道。周辺には白亜の灯台をはじめ、見尾火燈明堂、ねずみ塚、がある。季節によってつわぶき、スカシユリをみることができる。

2 見尾火燈明堂 (みおびとうみょうどう)

MAP D-5



現在の洋式灯台が明治時代に建てられる前、江戸時代まで使われていた燈明堂の復元実物モデル。
1635年(寛永12年)から約240年間、御前崎沖を航行する舟の安全を見守る重要な役割を果たし、その運用開始360年を記念して復元された。

3 御前崎灯台 (おまえさきとうだい)

MAP D-5



国指定重要文化財

御前崎のシンボル・白亜の洋式灯台。設計者は英国人のR・Hプラントン氏。1874年(明治7年)5月1日に初点灯し、以来美しい姿を保ちながら海の安全を見守っている。上ることができ、天気が良く空気が澄んだ日には、展望デッキから伊豆半島、南アルプス、富士山が一望できる。映画「喜びも悲しみも幾年月」(1957年公開)の舞台としても有名。
灯台と旧官舎、旧回転機械分銅自動券揚装置は令和3年8月に国指定重要文化財に指定された。

4 ねずみ塚

MAP C-5



遍照院の住職を襲った大ネズミが、住職を守ろうとした猫に退治されたという伝承に由来した塚。退治された大ネズミが住職の夢枕に現れ、海上の安全と大漁を約束し、住職らが塚をつくったとされる。
遊歩道の中間の場所に展望台とともに整備されている。

5 夕日と風が見えるん台と潮騒の像

MAP C-5



遊歩道の西端にある展望台で、「日本の夕陽百選」に選ばれた名所。特に、11月から3月に海に沈む夕日が美しい。
この地に立つ潮騒の像は1968年(昭和43年)に御前崎遠州灘県立自然公園に指定されたことを記念して建てられた。

6 下村勝次郎翁顕彰碑 (しもむらかつじろうおきなけんしょうひ)

MAP E-4



下村勝次郎翁は、1908年(明治41年)に民間初の動力漁船・第一駒形丸、その半年後に第二駒形丸を建造させた。勝次郎翁の進取の気性は発動機付き漁船建造を全国に先駆けて着手させ、御前崎を遠洋漁業の町として発展させたばかりでなく、日本水産会の飛躍的な発展の礎となった。
この碑は、その功績をたたえて2019年(令和元年)下岬区で建立した。

7 アカウミガメふ化場

MAP E-4



国指定天然記念物

市では昔から「カメの枕の大漁」という言い伝えがあり、ウミガメは大漁の神として大切にされてきた。
アカウミガメは毎年5月から8月にかけて産卵のために上陸する。ウミガメ保護監視員により、ふ化場で人工ふ化させた子ガメを海に放流する保護活動が長年行われている。また、御前崎小学校でも子ガメの飼育活動を長年続けており、地域をあげて保護・育成に尽力している。

8 駒形神社 (こまがたじんじゃ)

MAP D-4



御前崎指定文化財(本殿)(絵画)(第2号)

534年に勧請された。天津日高日子穗々手見命、豊玉姫命、玉依姫命の三柱を祀る。海上安全、大漁の守り神の神社。
2015年(平成27年)、拝殿の柱は式年遷宮を終えた伊勢神宮の御用材を譲り受けて改修された。
本殿と拝殿内に飾られる絵画「千羽の鶴」は市指定文化財である。

9 ねこ塚

MAP D-4



難破した船から遍照院の住職が猫を助け、寺で飼われることになった。
10年ほどたったある日、旅の僧に化けた大ねずみが宿を求め数日泊まることになったが、ある夜大ねずみが住職を食い殺そうとしたとき、気づいた猫が一命を捨てて住職を救ったという言い伝えから1932年(昭和7年)に御前崎村保存会が塚を建てた。

10 いもじいさんの碑 <海福寺>

MAP B-3



御前崎指定文化財(第8号)(碑)

大澤権右衛門公翁は1766年(明和3年)春、御前崎の海で遭難した薩摩藩の御用船・豊徳丸の乗組員24名を救助した。薩摩藩から御礼としてさつまいもとその栽培方法を教わり、その後さつまいもは御前崎の主力農作物になり、遠州地域に広まった。寺の本堂に向かって左手に翁の碑がある。

11 十一面観音立像 <海福寺>

MAP B-3



静岡県指定文化財(第118号)

観音立像は、遍照金剛(弘法大師)の制作と伝えられる。もと南海の法城高野山にあったものを空性が奉持してきたと由緒書に書かれている。柔和な相をしており、宝冠の周囲と頂に十一面の面相を刻んでいる。
以前は遍照院の観音堂にあったが、海福寺で保管することになった。

12 いちょうの木 <海福寺>

MAP B-3



御前崎指定文化財(第6号)

樹齢200年以上と推定される木の西側枝に空洞があり、その内部に石製の仏像が安置され、地上から2mと4m付近には乳房に似た気根が垂れ下がっていることから、昔から安産や母乳が出るようにと願掛けの木として大事にされてきた。

13 女岩観音堂と石像十一面観音立像

MAP B-2



御前崎指定文化財(観音)(第21号)

安永年間(1772年~80年)不漁続きの時、村長川口藤右衛門氏の夢枕に三夜に渡って観音様が現れて、カツオの漁場を指し、お告げの場所で大漁を果たすことができたといわれる。
お礼として村人とともに1781年(天明元年)観音様を祀った。
高さ77.3cmの本像は、十一面観音で石像というのも珍しく、民族学的に見ても興味深い作例である。

14 神明神社 (しんめいじんじゃ)

MAP A-3



西の風が激しい冬場は砂が飛び、田畑を埋め屋敷をも埋没させるほどの被害となった。
伊勢の内宮、外宮に代参を送り、1232年(貞永元年)6月16日、両宮を勧請して現在地の本社を創立した。この地の人たちは「おしんめ様」と呼んでいる。

● 御前岩灯台 (ごぜんいわとうだい)



沖合の岩礁「沖御前」に標識を建て、災害の絶無を期そうと1956年(昭和31年)に建設調査委員会が設けられ、1958年(昭和33年)3月に完成・点灯することができた。
御前岩礁上に三脚を据え付け、その上に円筒形灯台を載せて固定したもので、海岸から遠望すると小さく見えるが、水面上20mの高さを持つ堂々たる灯台。
完成から60余年の間、海の安全を見守り続けている。

● カツオ釣り体操



戦前より御前崎中学校の生徒は卒業後、遠洋漁業のカツオ船に乗り込み漁業に従事することが多かったことから、体育の授業でカツオ釣り作業に必要な筋肉の発達を促す「カツオ釣り体操」を考案した。
運動場に船に等しいものを置き、その上からカツオの模型を釣り竿で釣り上げる動作を繰り返す体操として実施された。

静岡県御前崎市 御前崎地区学び歩きマップ



— 海岸コース 約3km 徒歩 約40分
— ケープパークコース 約1.5km 徒歩 約30分
— 御前崎公園コース 約4km 徒歩 約90分



0 500m
 1:9,250

御前崎地区
 駿河湾
 御前崎港
 尾高海岸
 遠州灘
 御前崎サンロード
 御前崎公園
 御前崎灯台
 御前崎ケープパーク
 御前崎魚市場
 御前崎市場
 御前崎小学校
 御前崎こども園
 御前崎分屯基地
 御前崎地区センター
 御前崎市役所
 御前崎支所
 消防署白羽出張所
 エコパーク
 御前崎魚市場
 海福寺
 いもじいさんの碑
 十一面観音立像
 いちちょうの木
 女岩観音堂と石像
 十一面観音立像
 女岩観音堂と石像
 神明神社
 駒形神社
 遍照院跡
 ねご塚
 ねずみ塚
 見尾火燈明堂
 御前崎灯台
 静岡県最南端の岬方位標柱
 アカウミガメふ化場
 カメ岩
 下村勝次郎翁顕彰碑
 御前岩灯台
 (御前崎灯台の東南東約3km)